

端末活用し意欲高める

土曜授業の朝の15分間を「チャレンジタイム」として設定し、全児童15人が学年に応じた活動に励んだ。

タブレット端末を使って学習に取り組む児童＝いちき串木野市の荒川小学校



荒川小学校（いちき串木野市）

実践校3年目の本年度からタブレット端末を活用している。

記事を読んで問いに答えるワークシートを使い、読解力や語彙力を身に付けた。低学年は習った漢字を新聞から探すなどゲーム感覚で文字に親しみ、高学年は国語や社会の授業の際、単元ごとに新聞形式で要点をまとめた。

担当の山内ゆかり講師(49)は「端末を使うことで児童の意欲が高まった。取り組みを整理して次につなげたい」。ソフトボールをしている6年の木下敬君は「大谷翔平選手の記事を読むのが楽しい。打ち方や投げ方など参考になる」と話した。

（鶴園悠太）

かごしま NIE実践校

記事分析、壁新聞作りも

実践校2年目。記事から読み取った情報を基に考えを発展させ、視野を広げることを目指している。生徒

用玄関前には全国・地元計6紙の閲覧コーナーを設置。記事の分析や壁新聞作りなどに取り組んだ。

週末にコラムの書写や感想文執筆を行い、インターネット上の情報と新聞記事の正確性を比べたりもした。原田光教諭(28)は「新聞が身近になり、載っている言葉の意味などを尋ねられる機会が増えた」と手応えを語る。

朝日中学校（奄美市）

新入生向けの壁新聞を作る生徒たち
＝奄美市の朝日中学校



1年生は年度末、学んだことを生かし、新入生向けに部活や学校行事を案内する壁新聞作りに挑戦した。入学式で貼り出す予定で、吉田奈央さんは「写真もうまく使って、見やすいレイアウトを心がけたい」と話した。

（木下瑛司）